

小学校 第4学年 社会科授業研究報告

岐阜大学教育学部附属小学校 平野 孝雄

1 研究にあたって

(1)はじめに

新学習指導要領の改訂の基本的な考え方の中で、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」が取り上げられている。社会科においては、基礎的・基本的な知識が十分習得されていないという結果が出ている。(総合初等教育研究所)

その中でも、我が国の主な山・川・平野などを日本地図上のどこかを指摘させる問題や歴史上の事件や出来事を日本地図上から選択させる問題において、正解率の低さが問題視されている。

そこで、基礎的・基本的な知識・技能の習得に着目し、児童が習得した知識・技能を活用できるようにしていきたい。

3年間にわたる重点は、以下の2点である。

- ①地図活用能力
- ②描図能力

(2)児童生徒の実態

社会科の学習では、ある社会的事象に対して、予想をもち、資料を活用しながら、自分なりの考えがもてる課題解決学習を位置づけてきた。

以下のような実態が見られた。

(○できること、●不十分なこと)

- 様々な社会事象に関心をもち、社会の仕組みやその意味を追究していこうという意欲がある。
- 提示した社会事象について、その因果関係を知りたいと願い、学習課題を設定することができる。
- 前時までの既習内容や生活の経験を生かして、課題解決の見通しをもつことができる。
- 資料をもとに、根拠を明らかにしながら学習課題に対する考え作りを行うことができる。
- 提示された資料や地図帳、副読本を十分に活用して追究する姿に弱さを感じる。
- 根拠を明確にし、納得のできる結論を導くことが不十分である。

このような児童の実態から、課題として挙げられる点について分析をする。

以下のような資質や能力を育成していくことが求められる。

- ①資料を分析的に読み取る力
- ②資料から読み取った事実から関連性を考える力
- ③資料から読み取った事実をもとに考えたことを総合する力

(3)研究内容①と②に関わる具体的な手立て

研究内容①

主体的に地図資料にかかわるための学習活動の在り方。

研究内容②

地図活用能力・描図能力を伸ばす個に応じた指導・援助の在り方

社会科学学習において、地図を扱う場面は多い。特に4年生においては、県を中心とした地域学習である。常に地図帳を活用することができる。

追究の場面では、地図を用いて、事実から分かることを分析し、学習課題の解決の一助となるように活用をしていきたい。

そこで、学習課題を解決するための追究資料として地図資料を用いる。地図上から読み取れる事実を根拠として考え作りを行う学習活動の工夫をしていくことで、「地図活用能力」を育成することができると考えた。

また、地図資料によって得られた知識をもとに地図を描くことに活用することで「描図能力」を育成することができると考えた。

具体的な手立ては以下の通り。

- ア 一単位時間内に地図資料に触れる場を設定する。(研究内容①)
- イ 地図資料を用いて課題追究する時間を位置づける。(研究内容②)
- ウ 地図資料と他の資料に含まれる情報を比較したり、関連性を考えたりしながら、追究する学習活動を位置づける。(研究内容②)

2 授業展開

【学年】小学校第4学年

【単元名】「私たちが住んでいる岐阜県（全30時間）」

【単元のねらい】

岐阜県内における自分たちの市の地理的位置、県全体の地形や主な産業の概要、交通網の様子、主な都市の位置などを調べ、白地図にまとめて、その概要をとらえる。

【単元の流れ】

- ・『導入』（1時間）
- ・『47都道府県と岐阜県』（1時間）
- ・『県の様子』（2時間）
- ・『わたしたちの岐阜県（1）「低地の暮らし～海津市海津町～」』（8時間）【実践1】
- ・『わたしたちの岐阜県（2）「高地の暮らし～高山市宮町～」』（7時間）【実践2】
- ・『わたしたちの岐阜県（3）「伝統ある町の暮らし～岐阜市加納～」』（6時間）
- ・『県とわたしたちのまちの発てん』（5時間）【実践3】

実践1「わたしたちの岐阜県『低地の暮らし～海津市海津町～』（10時間）

【小単元の流れ】

- ・海津市海津町の様子
- ・〇〇さんのトマト作り
- ・これからの海津市

【小単元のねらい】

県内の低地に住む人々の生活の様子を調べ、県の特徴を考える。

【本時のねらい】

地形図や気温・降水量のグラフ、副読本などの資料を活用して調べ、低地に住む人たちの暮らしの様子について考える。

【授業の流れ】（6／8）

学 習 活 動	指導上の留意点
1.海津市海津町の土地の様子を確認する。 ・土地が海面よりも低い。 ・低湿地で大雨になると水につかる所で、なぜ水に弱いトマトをつくれるの？ 2.課題をつくる。 【課題】 どうして〇〇さんは、水に弱いトマトを作ることができるのだろうか？ 3.予想をする。 ・水を追い出す工夫があるんだ。 4.全体で交流する。 ・雪の降った日が岐阜市よりも少ない。 ・夏は雨が多くて、土が湿ってしまってトマト作りには適さない。 ・冬の気温は、比較的温かい。 ・畑の下に暗渠排水をしている 5.資料「〇〇さんの話」を読む。	※高須輪中の土地の高さ ※トマト作りの条件 ※岐阜市と海津市の気温の比較 ※暗渠排水の仕組み ※ビニルハウスの様子 ※気候図（降水量と積雪量） 〇〇さんが海津市でトマト作りをしているのは、温かい気候を生かしていることと、排水をして水がつかないようにしていることについて、資料の関連性を考えながら自然条件を生かしていることを理解する。 （技能・表現）
6.学習のまとめをする。	

実践2『わたしたちの岐阜県「高地の暮らし～高山市宮町～』（7時間）

【小単元の流れ】

- ・高山市の様子

- ・〇〇さんのトマト作り
- ・これからの高山市

【小単元のねらい】

県内の高地に住む人々の生活の様子を調べ、県の特徴を考える。

【本時のねらい】

地形図や気温・降水量のグラフ、副読本などの資料を活用して調べ、高地に住む人たちのくらしの様子について考える。

【授業の流れ】（5／7）

学 習 活 動	指導上の留意点
1.高山市宮町の土地の様子を確認する。 ・岐阜県の中では高い土地にある。 ・岐阜市と比べると、気温が低い。 2.課題をつくる。 【課題】高山市宮町では、どのようにしてトマトを作っているのだろうか？ 3.予想をする。 ・冬は気温が低く、雪が多い。だから、夏の時期を使って作っている。 4.全体で交流する。 ・高山市の夏の気温は、25度を超えるからトマト作りに適している。 ・高山市は山に囲まれた盆地なので、夏は暑い。 ・高山市の夏の降水量は、少ないのでトマト作りに適している。 ・高山では、気温の差が大きいので甘いトマトを作るのに適している。 5.資料「〇〇さんの話」を読む。 6.学習のまとめをする。	※高山市と岐阜市の気温の違い ※高山市の土地の高さ ※気候図（降水量と積雪量） 〇〇さんが高山市でトマト作りをしているのは、寒暖の差を生かしていることと、少ない降水量を生かしていることについて、資料の関連性を考えながら自然条件を生かしていることを理解する。 （技能・表現）

実践3 『県とわたしたちのまちの発てん』(3 時間)

【小単元の流れ】

- ・様々な特色をもつ岐阜県
- ・県の中心地、岐阜市
- ・これからの岐阜県

【小単元のねらい】

これまでに調べたことを生かして、岐阜県の特徴について白地図を用いてまとめることができる。

【本時のねらい】

岐阜県各地域に目を向け、自然条件や環境を生かした特色をとらえることができる。

【授業の流れ】（1／5）

学 習 活 動	指導上の留意点
1.これまでの学習をふりかえる。 ・海津市は、低い土地を生かして、米作りや野菜作りが行われていた。 ・高山市は、寒暖の差を生かして、野菜作りが行われている。 ・岐阜市では、周辺で取れる物を生かしてうちわ作りが行われてきた。 2.課題をつくる。 【課題】岐阜県の特徴について白地図にまとめよう！ 3.白地図にまとめる ・土地の利用の仕方や気候をもとに行われている産業などを調べて、白地図にまとめる。 4.学習のまとめをする。	※これまでに学習してきた内容を掲示する。 自然条件を生かして、取り組まれている産業や伝統について調べ、白地図にまとめることができる。 （技能・表現）

3 実践のまとめ

(1) 地図資料活用場面での児童生徒の反応

◆ 地図活用能力に関わって

実践1「わたしたちの岐阜県『低地のくらし～海津市海津町～』(10 時間)」

導入時に、海津市の土地の高低の様子が表記されている地図を提示した。南北に伸びる海津市の中でもその高低差があることを読み取ることができた。また、航空写真を提示することで、土地の高さと川の水面の高さがほぼ同じであることに気付かせることができた。

そこで、海津市の農家で作られているトマトを提示した。子どもたちは、トマト作りの経験がある。その経験と洪水が多いかもしれないという予想をかかわらせて、水に弱いトマトが海津市で作られていることに疑問をもち、課題が作られた。高低差の地図とトマト作りを結び付けて、課題化をした児童の姿があった。

追究が始まると、子どもたちは、提示資料や地図帳を活用し、海津市でトマトが作られる条件を探し出そうとしていた。

トマトの生育条件は、

- ・ 温暖であること
- ・ 水はけがよいこと
- ・ 日照量があること

である。

生育条件をもとに、追究をした。

- 『2 月の平均気温図』を見て、岐阜県内では、比較的温かいことに気づいた。
- 平らな土地(平野)であり、畑にしやすい土地であることに気づいた。
- 『2 月の降水量』を見て、雨や雪が少ないことに気づいた。

以上のことについて地図帳を活用して、考えることができた。

海津市でトマトが作られているのは、10 月から翌 3 月にかけてである。冬から春にかけて作られていることも追究をした。海津市で作られているトマトが自然条件や気候条件に適していることを地図帳から読み取り、課題について納得するこ

とができていた。

実践2『わたしたちの岐阜県「高地のくらし～高山市宮町～』(7 時間)」

実践 2 でも、実践 1 同様にトマト作りに焦点をあてて、授業を展開した。

はじめに、『岐阜県内におけるトマト作りが行われている分布図』を提示した。児童の意識の中に、トマト作りは、低地で行われているという意識があった。

しかしながら、岐阜県内全体でトマト作りが行われていることを分布図から読み取ることができた。それをもとに、児童と課題化をした。「高地の高山市では、どのようにしてトマトを作っているのだろうか？」という共通の課題をもって追究し始めた。

児童の中には、低地の海津市との比較もしながら追究したいと、前時までに習ったことともつなげて考える児童の姿があった。

高山市のトマト作りは、7 月から 10 月にかけて行われる。低地の海津市とは、正反対の時期に作られていることになる。

子どもたちは、前時までに習った「トマトの生育条件」をもとに、高山市であてはまることはないかと、地図帳を用いて調べ始めた。

- 『7 月の平均気温図』を見て、高山の収穫時期に気温が高いことに気づいた。
- 『7 月の降水量』を見て、水に弱いことに気づいたが雨よけビニルをすることで解消できると考えた。
- 山の多い土地であるが、日照量も満たしていることに気づいた。

さらに、児童が着目したのが、『盆地』ということである。地図帳を見ると、高山市は「高山盆地」と記されている。児童は盆地であることがトマト作りに関係があるのではないかという見方をした。この地形を利用しているのではないかと考えたのである。

盆地については、地図ではとらえにくいことから、立体地図も同時に活用をした。それをもとに、考えを深めていく姿が見られた。

『盆地』は、その性質上寒暖の差が激しくなる。この寒暖の差こそが、トマト作りでは重要である。

高山市で作られるトマトをはじめ、農作物がおいしいと言われているのは、この寒暖の差によって甘みが増すと農家の藤本さんは述べていることを資料化し、児童に読み取らせることができた。

地図を活用し、土地の様子を把握することによって、多用な考え方を生み出すことができた。



◆描図能力に関わって

実践3 『県とわたしたちのまちの発てん』(3時間)

これまでに、「海津市のトマト」、「高山市のトマト」について追究してきた。いずれも地形を利用したものであることを学んだ。

そこで、授業のまとめとして、地図資料をもとに、課題追究を行ったことを授業のまとめを行えば、描図能力を高めることができるのではないかと考えた。

児童が取り組んだ作業は、以下の順。

- ①四つ切画用紙に岐阜県の形を描き、ペンでなぞる。
- ②岐阜県の地図に川や山地、気候など、土地の様子について情報を入れる。
- ③各地域で作られている食べ物や建物、伝統産業などを調べ、どんな土地の様子を利用しているかについてまとめる。
- ④描図作業を終え、仲間に「〇〇は、～というもので、△△という土地の様子を生かしているよ」と説明をする。

児童は、自ら作った資料をもとに、地形など地

図上の情報を仲間に説明をすることで活用能力を高めることができた。

(2)児童生徒の変容

A子は、社会科に対して苦手意識のある児童である。地図活用も描図も苦手であるということから、抽出した。

毎時間の授業の際、地図帳を用いて地図に親しむようにした。都道府県名、県庁所在地、山や川などの名前への関心を高めていった。

ゲーム感覚で始めたことが地図帳への抵抗感を無くすことにつながったと考える。

A子は、課題に対する考えのもとなるものに、地図帳を意識するようになった。

「海津市のトマト作り」の単位では、トマト作りが行われている理由として、「高速道路が近いから」と、地図帳を見せて語った。

また、「トマトを作るだけじゃなくて、作ったら運べないといけないでしょ。」と発言した。

社会科が苦手だったA子が地図帳を用いて、全く別の視点で追究したのは、資料を活用する能力が伸びたからではないだろうか。

(3)成果と課題(○は成果 ●は課題)

○地図帳を課題追究の資料として児童に活用させることにより、地図活用の能力が高まった児童の姿が見られた。

○地図帳を身近に感じさせる手立てを打つことで、児童にとって地図帳が追究資料として十分に役立った。

○描図は、情報を盛り込み、説明する資料として活用できるようにすることで児童が目的をもって描くことができるようになり、描図能力の向上につながる。

○地形などの情報を児童が白地図上に盛り込み、授業のまとめを行わせたことが描図能力の向上につながった。

●地図活用能力の向上には、教師が地図資料を意図的に用いることが不可欠である。

4 参考資料

実践1「わたしたちの岐阜県『低地のくらし～海津市海津町～』

海津市の上空写真



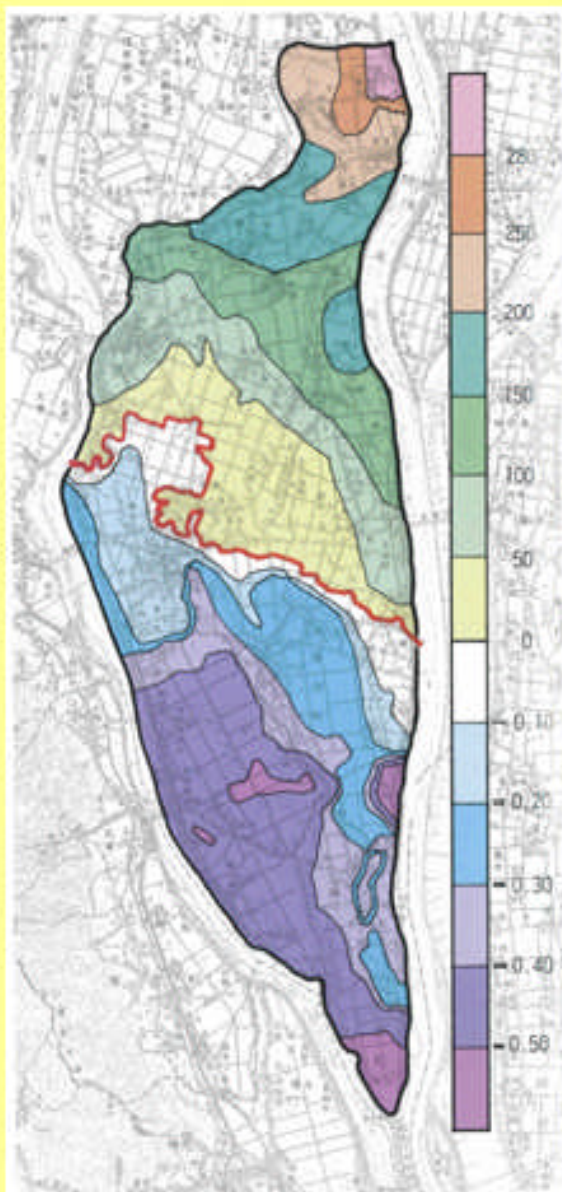
←第1時で海津市海津町の全景をとらえるのに用いた資料

タンク・えんとつ

トマトは夏にとれる野菜です。海津町では、10月から収穫します。タンクの重油を使って、暖房をして、冬でも10℃～12℃ほど気温を上げます。



【資料】「海津市の土地の高さ」



しゃ光・保温カーテン

ビニールやフィルムだけでは、1℃ぐらいしか気温が上がリません。カーテンをハウス全体にかぶせると、冬でも5℃ぐらい気温が上がります。

夏には、日よけにもなります。



あけているところ



おろしているところ

暗きょ排水設備

トマトは、水分の多い土をさらいます。そのため、地下に、暗きょ排水設備が作ってあります。

暗きょ排水設備とは、配水管を土にうめて、土の中のよぶんな水を出す設備のことです。



↑

第6時で追究する際に用いた資料

←第2時で海津市の土地の高低差をとらえるために用いた資料

【資料】 「 さんのお話」



高山市で作るトマトは「夏秋トマト」と呼ばれています。飛騨地方全域で作られています。高山市は、海拔200mから1300mあります。海拔が高く、盆地などの複雑な地形により、昼と夜の気温の差が大きくなり、甘みのあるおいしいトマトになります。

真夏でも気温が低いのでよく育ちます。

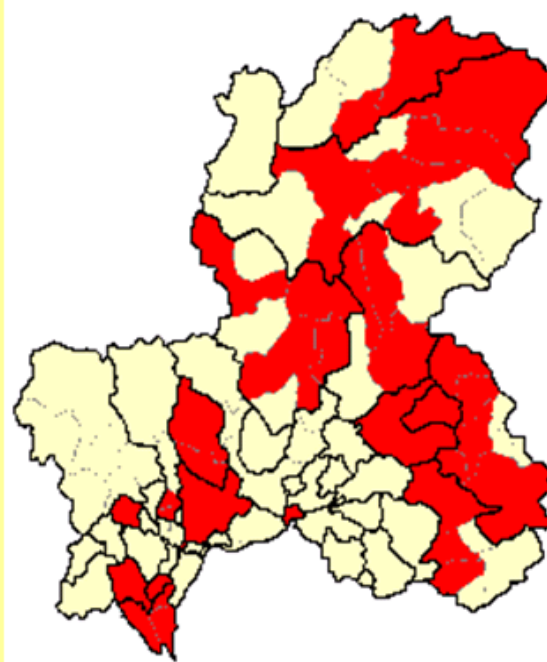
また、飛騨地域は90%以上が山林です。この広い地域に降る雨や雪のおかげで水が豊富でトマトの生産に役立っています。

飛騨地域は、雨が多いですが、ビニールハウスで「雨よけ栽培」をするので大丈夫です。

↑

第5時で用いたトマト農家の方のお話(追究資料)

【資料】「岐阜県内でトマト栽培をしている地域」



↑

第1時で用いた岐阜県内のトマト栽培を把握するための資料

実践3『県とわたしたちのまちの発てん』



↑

白地図にまとめる児童の様子

小学校 第5学年 社会科授業研究報告

岐阜市立黒野小学校 道家 信彦

1 研究にあたって

(1)はじめに

5年生の社会科では、地図や地球儀などの資料を効果的に活用し、社会的事象の意味について考える力や、調べたことや考えたことを表現する力を育てることが能力面の目標となっている。そして、資料から必要な情報を読み取ることや、全体的な傾向を捉えること、複数の資料を関連づけて読み取ること、資料を整理したり再構成したりすることなどを学習の中に位置づけることが必要となっている。

以上をふまえると、地図資料についても、児童が地図に接する機会を積極的に設け、読図や描図の力を育てることが大切であると考えられる。

担任する学級では、授業の始めに地図帳を使って県名や県庁所在地を確認したり、索引を使って地名を探したりして、地図に親しむ時間を設けてきた。地図を課題追究の資料として取り上げる際は、題名や凡例を全体で確認する時間を設け、足並みを揃えて追究に臨めるようにしている。必要に応じて8方位や、縮尺など基本的な読図の方法を確認し、正しく読み取りができるよう指導している。

5年生は、食料生産・工業生産の様子や、国土と環境について日本全体を対象にして学習する。そのため、地図活用の場面が非常に多く、主体的に地図を活用できるかどうかは児童のよりよい学びにつながっていくと考えられる。

そこで、本実践では、2年間の研究成果を生かし、5年生を対象に、研究内容①「主体的に地図資料にかかわるための学習活動の在り方の工夫」及び②「描図能力・地図活用能力の評価の在り方の工夫」についての実践・考察をする。

(2)児童生徒の実態

担任する学級では、授業で提示される写真や統計などの資料に興味をもち、意欲的に学習に取り組む児童が多く見られる。昨年度から継続的に地図帳に向き合う場面を設けたり、課題追究の手段として地図を活用したりしてきた結果、地図その

ものに対する抵抗感が少なくなったり、進んで地図帳を開いて学習に生かそうとしたりする児童の姿が見られるようになった。

その一方で、方位や縮尺、地名、地図記号などについての読図の力が十分ではなく、情報を正確に読み取ることを苦手とする児童も見られる。5年生となり、学習の対象が日本全体になったことや、より高度な地図資料に触れる機会が増えたことも、苦手意識を高めていると考えられる。そのような児童には、題名や凡例を確認したり、読み取り方の例を示したりして、個別指導を行うようにしている。

(3)研究内容①②に関わる具体的な手立て

本実践では、研究内容①②をふまえ、5年生の「工業生産と工業地域」の単元で考察をする。

研究内容①について

主体的に学習を進めるうえで、児童の興味・関心を高められるような活動を設定することが大切であると考えた。そこで、単元の導入で、都道府県の工業生産額を調べ、工業生産の盛んな地域を白地図で整理する学習活動を位置づけた。その活動を通し、工業が盛んな地域の分布に偏りがあることに気づき、その理由について追究ができるように単元を構成した。また、児童が単元導入で作成した地図は、課題追究に生かせるように単元を通して使用するようにした。

研究内容②について

児童の地図活用力を育てるために、毎時間行う継続的な活動に加えて、追究の資料として地図を利用する。そして、地図を他の資料と比較・関連づけることで読み取りが深まるように、地図に関わる複数の資料を提示するようにした。

実際の読み取りの場面では、作成した白地図から工業が盛んな地域の分布を調べるとともに、工業地域・工業地帯を示した地図や主な鉄道、高速道路を示した地図などにつなげて考えることで、工業地域の立地条件を明らかにしていく。

2 授業展開

【学年】小学校第5学年

【単元名】わたしたちの生活と工業生産「工業生産と工業地域」（全5時間）

【単元のねらい】

- ・わが国の工業の現状や特色について、各種の写真・地図・分布図や統計資料を活用して捉え、新聞などに分かりやすく表現し、発表することができる。

【単元の流れ】

- ・大田区の工業生産 (1時間)
- ・海ぞいに広がる工業地域 (2時間 本時)
- ・全国へ、海外へ (1時間)
- ・まとめと振り返り (1時間)

【本時のねらい】

- ・工業生産額が多い都道府県を調べ、白地図に着色をする活動を通して、工業が盛んな地域は、海沿いに連なるように分布しているという特徴に気づくことができる。

【授業の流れ】（2／5）

学 習 活 動	指導上の留意点 ◎評価規準
1. 前時を振り返り、工場が集まり、工業が盛んな地域があることを確認する。 ・東京の大田区は中小の工場が集まっている。 ・東京湾を囲むように工業が盛んな地域が広がっている。 ・海岸が直線になっているのは埋め立て地だから。	・京浜工業地帯の空中写真を提示する。 ・地図帳を使って東京や横浜、千葉など、京浜工業地帯にある地名を確認する。 ・「工業地域」「工業地帯」の用語を確認する。
2. 本時の課題をつかむ。 【課題】 工業生産が盛んな地域がどのように広がっているか調べよう。	・都道府県の工業生産額を調べる際に、県別の統計資料の見方を全体で確認する。
3. 地図帳を使い、工業生産額が多い都道府県を調べる。	・工業生産の盛んな地域の広がりを確認するために、白地図【資料1】を利用して工業生産額上位の都道府県を着色する。
4. 白地図を使って、工業生産額が多い都道府県を着色する。	・白地図から分布が読み取れない児童に対しては、方位や地形などに着目して偏りがなければ考えさせる。
5. 着色した白地図を調べ、気づいたことを発表する。 ・工業生産が盛んな地域は、東京都から愛知県まで隣り合わせになっている。 ・関東地方に工業が盛んな地域が集まっている。 ・海沿いに工業の盛んな地域が多い。 ・日本海側よりも太平洋側に工業が盛んな地域が多い。 ・東北、北海道、四国には少ない。	・白地図で分かったことを確認するために、日本の主な工業地域と工業地帯【資料2】を提示し、工業地域や工業地帯の分布や特色を理解する。 ・太平洋ベルトなど用語の確認をする。
6. 工業生産が盛んな地域の広がりについて特徴をまとめる。 ・太平洋側や瀬戸内海に工業生産が盛んな地域が連なっている。 ・日本海側にも盛んな地域がある。	◎本時の評価規準 白地図や地図資料から工業が盛んな地域は、海沿いに分布しているという特色を読み取ることができる。（技能・表現）。
7. 本時のまとめをする。	

2 授業展開

【学年】小学校第5学年

【単元名】わたしたちの生活と工業生産「工業生産と工業地域」（全5時間）

【単元のねらい】

- ・わが国の工業の現状や特色について、各種の写真・地図・分布図や統計資料を活用して捉え、新聞などに分かりやすく表現し、発表することができる。

【単元の流れ】

- ・大田区の工業生産 (1時間)
- ・海沿いに広がる工業地域 (2時間 本時)
- ・全国へ、海外へ (1時間)
- ・まとめと振り返り (1時間)

【本時のねらい】

- ・工業が盛んな地域について、製品の輸送の手段について資料や地図帳などで調べる活動を通して、工業地帯や工業地域が海沿いに立地することをつかむとともに、輸送の手段があれば内陸にも立地することが理解できる。

【授業の流れ】（3／5）

学 習 活 動	指導上の留意点 ◎評価規準
1. 前時の学習を振り返り、工業が盛んな地域の分布について想起する。 2. 本時の課題を確認する。 【課題】 どうして工業の盛んな地域は、海沿いに集まっているのだろうか。 3. 個人で調べ学習をする。 4. 自分の考えを発表する。 ・材料や製品を運ぶときに船が使える。 ・自動車と同じように、製品を輸出するときに便利だ。 ・鉄や石油など輸入するときにも便利だ。 ・高速道路や鉄道が近くにある。 ・トヨタ自動車と同じように、工場の近くに関連工場が集中すると便利だ。 ・海沿いだと埋立地を利用して工場を建てることができる。 5. 内陸部にも工業が盛んな地域があることについて理由を考える。 ・長野県の諏訪は海から遠いけれど高速道路や鉄道がある。 ・高速道路沿いや空港の近くに工場がある地域もある。 ・精密機器を作っている地域は、運ぶのに大きな船はいらない。自動車や飛行機でもたくさん運べる。 6. 本時のまとめをする。 工業地域が海沿いに集まる理由は、港が近いと船を使って製品を運べ輸入・輸出がしやすい。また、高速道路や鉄道を使って速く運べる。トヨタ自動車と同じように関連工場が集まるよさもある。作っている物によっては自動車や飛行機で運べるから、高速道路や鉄道がちかくにあれば、海沿いではなくても工業が盛んな地域がある。	・京浜工業地帯の空中写真を提示する。 ・工業が盛んな地域の分布を確認するために前時で作成した白地図【資料1】や、日本の主な工業地域と工業地帯【資料2】を提示する。 ・【資料1】【資料2】と日本の主な道路と鉄道【資料3】、輸送機関別の輸送量【資料4】や既習の資料とつなげて課題追究を行うように助言する。 ・自動車を作る工業で学んだことも振り返り生かすようにする。 ・長野県の諏訪市の位置を地図帳で確認し、内陸部でも工業が盛んな条件を見つけるようにする。 ◎本時の評価規準 工業の盛んな地域についての資料を調べ日本の工業地帯や工業地域の立地の特徴を理解することができる。（知識・理解）

3 実践のまとめ

(1) 個に応じた指導・評価(U児・Y児)

①実践1

「工業生産と工業地域」の学習では、工業が盛んな地域の分布と、その立地の条件について学習する。単元の導入で、中小工場が集中している東京都の大田区の様子について扱い、町中の小さな工場がロケット等に利用される高度な技術を持っていることを知った。

それを受けて、実践1では範囲を日本全体に広げ、工業生産の盛んな地域がどのように分布しているか、都道府県の工業生産額を地図帳の統計資料を利用して調べた。そして、上位の都道府県を白地図に着色し、分布の特徴について考察した。

作業的な活動であることから、多くの児童が、意欲的に白地図に着色する姿が見られた。しかし、分布について考える際に、その様子をどのように表現すればよいか戸惑う児童も見られた。

そこで、関東、中部といった地域区分で集中している地域を捉えたり、8方位で言い表したりするように助言をした。

U児は、工業生産上位の県を調べ、白地図を着色するまでは、進んで取り組んでいた。しかし、他の児童同様、分布の様子についてどのように表現すればよいか戸惑っていた。全体指導を受けて、地方区分を使い以下のように表すことができた。

- ・ 関東地方や、中部地方に工業が盛んな地域が多いことが分かる。特にその中でも、南の方に多い。
- ・ 海の近い県に多いことが分かる。

Y児は、着色した白地図から、海沿いの都道府県に集中している様子を捉えることができていた。そこで、より詳しく表現できるように、「太平洋」「日本海」など海の名前を使って表現するように促した。全体への指導と合わせて、次のようにまとめることができた。

- ・ 太平洋側に工業の盛んな地域が多い。
- ・ 東北や北陸は工業生産額の多い県が少ない。
- ・ 中部や関東に工業の盛んな地域が集まっている。

②実践2

実践②では、工業の盛んな地域が海沿いに集中している理由について考える学習を行った。その際に、前時に作成した白地図を生かして課題化したり、白地図とつなげて考えられるように、追究の資料を複数用意したりした。

授業の導入では、作成した白地図をもとに前時の学習を振り返った。どの児童も、工業の盛んな都道府県が海沿いに集中していることを理解しており、「どうして工業の盛んな地域は海沿いに集まっているのだろうか」という学習課題を抵抗なく設定することができた。

全体指導では、各自で作成した白地図が、考えをつくるための拠り所となり、他の資料とつなげて考えることができると指導した。【資料3】「日本の主な道路と鉄道」については、地図の見方を全体で確認した後、白地図上に示される工業の盛んな都道府県と重ねて考えるように指導した。加えて前単元の「自動車を作る工業」で学んだ製品の輸出入の輸送手段についても、掲示物やノートを振り返り、追究に生かすように助言をした。

U児は資料【資料4】「輸送機関別の輸送量」と既習の自動車の輸出入とつなげて考えをまとめ、海沿いに立地すると製品の輸出入の際に有利であることに気づくことができた。また、【資料3】や【資料4】の自動車を使った輸送量にも着目し、高速道路があることの便利さについても考えることができた。

- ・ これまでの学習で、外国へ輸出される自動車は船を使っていました。だから、海沿いの地域は船を使うことができる。それに外国からいろいろなものを輸入することもできるので船が使えることはとても大切だと思う。
- ・ 海沿いには、高速道路や鉄道が通っている。自動車は目的地まで届けることができるから自動車を利用することが多いと思う。

Y児は、教科書にある京浜工業地帯の航空写真と合わせて考え、海沿いは工業用地の確保が容易であることができた。また、【資料4】から、貨物の輸送に船が果たす役割が大きいことに

気付き、船が利用しやすい海沿いに立地することを理解することができた。

加えて、「自動車をつくる工業」で、自動車メーカーの工場周辺に、関連工場が立地していることを想起させた。その結果、工場が集中して立地することで、製品の輸送で便利になるのではないかと考えることができた。

- ・京浜工業地域の写真を見て、海沿いの都道府県では、海を埋め立てて工場をつくることができる。工場をつくるために住民に迷惑をかけないから工業が盛んになると分かりました。
- ・貨物輸送機関別の輸送量のグラフから、工場で作られた物を運ぶ方法は、自動車が一番多く、船が次に多いことが分かった。輸出したり、輸入したりするときには、自動車では運ぶことができない。だから、船で運ぶことができる海沿いに広がることがわかりました。
- ・トヨタ自動車を勉強したときも、関連工場が近くにあると速く部品を届けられた。それと同じように、海沿いに工場が集まると、いろんな工場と行き来して協力できるので、集まると思います。

(2) 児童生徒の変容

U 児、Y 児ともに、単元の始めに、「自動車を作る工業」の学習をもとにして、中部地方では自動車工業が盛んだらうと予想していた。しかし、工業が盛んな地域の全国的な広がりについては考えが及ばないようであった。2時間の授業を通して、工業生産額が上位の都道府県を白地図を使って整理したり、それをもとに、他の資料とつなげて考えたりする中で、工業が盛んな地域の分布や立地の条件について、二人とも明らかにすることができた。

U 児のノートの記述より

今日の勉強で分かったことは、工業が盛んな地域が海沿いに集まっていることです。その理由は、海沿いだと船が使える。船を使うと、外国との間で輸出や輸入をすることができます。だから海沿いがいい。それから高速道路や鉄道が

海沿いに集まっているから、工場と工場をつなぐことができる。それに海を埋め立てれば工場用の土地がたくさんできる。だから海沿いに工場がたくさん集まっていると思う。

Y 児のノートの記述より

今日の勉強で分かったことは、海沿いに工業が盛んな地域が集まっているということです。どうしてかということ、海沿いは海を埋め立てることで工場を広げられます。また、海沿いに鉄道や高速道路があつて、車や船を簡単につかうことができるからです。

(3) 成果と課題、課題解決の方途

成果 研究内容①に関わって

- ・地図帳の統計資料を調べ、白地図に着色をする作業的な活動を位置づけたことで、どの児童も意欲的に学習に取り組むことができた。調べたことをもとに着色したことで、「自分だけの地図を作る」楽しさを感じる児童も見られた。
- ・1時間目に自分で作製した地図を継続して使用したことから、2時間目の学習課題を容易につかむことができ、主体的に追究活動に取り組もうとする姿勢をつくることができた。

成果 研究内容②に関わって

- ・白地図に着色をする活動を位置づけたことで、統計資料をもとに、目的に合わせた地図を作る活動ができた。
- ・工業が盛んな地域の分布を、交通網や、輸送手段の資料とつなげて考えるようにすることで、その立地条件について考えることができた。

課題

授業時数、授業内容との兼ね合いもあり、地図に触れる時間を十分に確保することは難しいと感じた。今回の実践では、統計資料に基づき白地図に着色する活動に、多くの児童が進んで取り組めた。また、短い時間の中で、地図を作る楽しさを味わえた児童も見られた。読図・描図の力を育てるためには、地図を通して児童が身に付ける内容を明確にして、地図に向き合う活動を、継続的、計画的に位置づけていく必要があると強く感じた。

4 参考資料

【資料 1】工業生産額上位の都道府県を整理する白地図



【資料 2】日本の主な工業地域と工業地帯

* 東京書籍

新編 新しい社会 5 年上 p80 参照

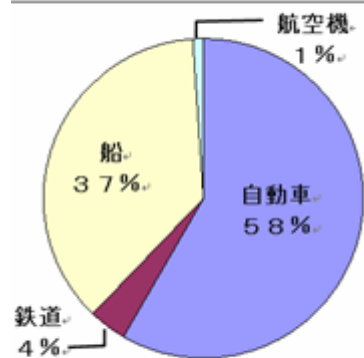
【資料 3】日本の主な道路と鉄道

* 東京書籍

新編 新しい社会 5 年上 p82 参照

【資料 4】輸送機関別の輸送量

かもつゆそうきかんべつ ゆそうりょう
貨物輸送機関別の輸送量



総貨物輸送量 5704 億トンキロ

【授業の様子】



小学校 第6学年 社会科授業研究報告

岐阜市立日野小学校 高畑 友宏

1 研究にあたって

(1)はじめに

4月、6年生に進級した子どもたちと社会科の歴史学習をスタートした。当初より、進んで地図帳を使って地名探しをする姿が見られ、5年生までに、地図帳に親しむ機会があったことがうかがえた。こうした素地を生かして、一層、主体的に地図と関わる機会を設けること、地図活用能力や描図能力を伸ばせるようにすることを念頭において実践を進めることとした。

(2)児童生徒の実態

児童の実態は、年度当初より、授業最初の地名探しや地図旅行など、地図帳に触れる機会を継続的に位置づけたことで、積極的に地図帳を活用しようとする姿がさらに増えた。

歴史学習の中でも、「源頼朝と鎌倉幕府」において、鎌倉の復元模型の資料を用いて、鎌倉に幕府を開いた理由を考える授業、「徳川家光と江戸幕府」において、大名配置図の資料を用いて、家光の大名統制策を考える授業などで、地図資料を扱った。その際、何をどのように読み取ればよいのか分からず、立ち止まってしまう児童の姿が多く見られた。明らかに、絵や写真資料から課題解決に向かう場面と比べると、抵抗を感じるということが分かった。

こうしたことを踏まえて、2学期以降、地図資料を扱った授業をさらに充実させ、自信をもって地図資料に向かえるようにすること、それらを扱うことのよさや、楽しさを味わえるようにすることをめざして、以下のように研究を進めることとした。

(3)研究内容①②に関わる具体的な手立て

【研究内容①】

主体的に地図資料に関わるための学習活動の在り方

ア 地図資料を比較して、共通点や相違点を見つける学習活動の工夫

複数の地図資料を提示して、比較する学習活動

を仕組むことで、主体的に地図資料に関わろうとする姿が見られるのではないかと考えた。

実践1では、地図の内容を見て比較することに加えて、「伊能図」を白地図にしたものと、現在の日本白地図を用意し、片方をトレーシングペーパーで写し取ることで、重ねて比較できるようにした。そして、それらを黒板提示用にも用意し、全体でも確認できるようにした。

【研究内容②】

地図活用能力・描図能力を伸ばす個に応じた指導・評価の在り方

ア 読み取る視点を明確にした指導の工夫

地図資料を前にすると、立ち止まってしまう児童が多いという実態を踏まえて、地図資料を読み取るための視点を明確にすることで、個に応じた指導に生かすことができるのではないかと考えた。

実践1では、「伊能図」と「道中図」を比較する際、「島や海岸線の形」、「地図にかかれていること」という視点を与えて、自分の考えをもてるようにした。実践2では、自分で作成した分布図から分かることを読み取る際に、「州別で見る」、「年表とつなげて見る」という視点を与えた。そして、机間指導のときにつまずいている児童に対しては、これらの視点に基づいて考えることができるように、声かけを行った。

イ 自分で地図や分布図を描いて調べることができるようにするための学習活動の工夫

日頃は、与えられた地図資料をもとに、それを読み取る活動が中心となっているが、自分で地図を描いてみたり、調べたことを白地図にまとめたりする学習活動を取り入れることで、描図能力の育成を図りたいと考えた。

そこで実践2では、歴史学習で登場した国々を簡単な分布図にまとめ、そこから、歴史上、日本とのつながりが深かった国々について考える学習活動を仕組んだ。

2 授業展開 《実践事例1》

【学年】 小学校第6学年

【単元名】「江戸の文化をつくりあげた人々」（全6時間）

【単元のねらい】

伊能忠敬の業績を中心に、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学といった江戸の文化に関心をもつようにし、社会が安定するにつれて町人の文化が栄えたことや、新しい学問がおこったことを、人物の働きと関連させながら理解できるようにするとともに、江戸時代に生まれた町人の文化や新しい学問が、その後の新しい時代に向けて果たした役割を考える。

【単元の流れ】

- ・地図を比べてみよう（1時間）本時
- ・全国を測量する（1時間）
- ・浮世絵が広がる（1時間）
- ・人々が歌舞伎を楽しむ（1時間）
- ・新しい学問が広がる（1時間）
- ・新しい時代への動き（1時間）

【本時のねらい】

伊能図とその他の地図を見たり重ね合わせたりして比べる活動を通して、伊能図の正確さに気づき、江戸時代の文化や学問の発展や、このころの社会の様子についての学習課題をつくることができる。

【授業の流れ】（1／6）

学 習 活 動	指導上の留意点 ◎評価規準 ◇資料
1. 自分で日本地図をかいてみる。 2. 伊能図を見て、それがいつ誰によってつくられたものかを知る。 伊能図とその他の地図を比べよう 3. 伊能図と大日本国大絵図を比べて気づいたことを発表する。 【視点① 島や海岸線の形】 ・伊能図は今の日本地図とほとんど変わらない。 【視点② 地図にかかれていること】 ・伊能図は北海道や小さな島までかかれている。 ・伊能図は山の絵がかいてある。道中図は多くの地名がかかれている。 4. 伊能図と現在の地図を比べて気づいたことを発表する。 ・現在の地図とほとんど同じ形。 ・北海道と東北地方が少しずれているだけ。 5. 伊能忠敬について、疑問に思ったことや調べたいことをノートに書く。 6. 伊能忠敬のほかにも、同じ時代に文化や学問の発展のために活躍した人々がいたことを知り、単元を貫く課題をつくる。 江戸時代の文化や学問の発展のために活躍した人々や、このころの社会の様子を調べよう。	・自分で描いた後、地図帳で確かめさせ、地図を描くことの難しさを実感させる。 ◇伊能図【資料1】 ◇大日本国大絵図 （道中図）【資料2】 研究内容②に関わる手立て（ア） ※2つの地図を比べるための視点を与える。 研究内容①に関わる手立て（ア） ※トレーシングペーパーで写し取り、重ねて比べてみる。 ◇伊能図を白地図にしたものと現在の日本白地図（後に重ね合わせるため） 〔黒板提示用〕【資料3】 ◇伊能図と現在の地図を印刷したプリント【資料4】 伊能図とその他の地図を見たり重ねたりして比べ、相違点を見つけることができる。【技能・表現】

《実践事例2》

【学年】 小学校第6学年

【单元名】「日本と関係の深い国々」(全10時間)

【単元のねらい】

我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子に関心をもち、外国の人々と共に生きていくためには、異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることを理解できるようにする。

【単元の流れ】

- ・歴史や生活の中の世界を探そう (3時間) 本時…第1・2時／3時
- ・日本と結びつきの強い国を調べよう (4時間)
- ・調べたことをまとめよう (2時間)
- ・調べたことを発表しよう (1時間)

【本時のねらい】

歴史学習の中で登場した世界の国々について分布図にまとめる活動を通して、日本と関係の深かった国を読み取ることができる。

【授業の流れ】(1・2／10)

学 習 活 動	指導上の留意点 ◎評価規準 ◇資料
1. 歴史の学習で出てきた世界の国を思い出す。	・自由に話をさせ、学習への興味を喚起する。
2. 課題をつかむ。 歴史学習で出てきた国を分布図にまとめ、日本とのつながりが深かった国を調べよう。	◇ワークシート1【資料5】 ・国名が登場するページ数を入れたり、グループで活動できるようにしたりして、どの児童も無理なく調べることができるようにする。
3. 6年社会の教科書に登場する国を調べて集計する。	
4. 集計したことをもとに白地図にまとめる。 (ここまで第1時)	研究内容②に関わる手立て(イ)
(ここから第2時)	※調べたことを簡単な分布図にまとめる。 ワークシート2【資料6】
5. 分布図を見て分かったことや考えたことを書き、全体で交流する。 ・中国、朝鮮とのつながりが多かった。 【視点① 州別に見てみる】 ・アジア州、ヨーロッパ州、北アメリカ州ばかりである。 ・ヨーロッパ州のいろいろな国とつながりがあった。	◇白地図 ◇世界地図【黒板提示用】
【視点② 年表とつなげて見てみる】 ・中国、朝鮮は古い時代も新しい時代にも登場している。 ・古い時代には中国、朝鮮とのつながりが多かったが、時代が進むにつれて、ヨーロッパの国々や、アメリカとの関わりが増えてくる。	研究内容②に関わる手立て(ア) ※分布図を読み取るための視点を与える。
6. 学習を振り返り、感想を書いてまとめる。 ・日本は、昔から世界のいろいろな国と関わりをもってきた。 ・世界の国との関わりは、日本から近い国だけでなく、遠い国ともあった。 ・交通が発達するにつれて、日本から遠い国とも関わりをもつようになった。 ・現在は、どんな国とどのようなつながりがあるのか調べてみたい。	分布図や年表から日本と関係の深かった国を読み取ることができる。 【技能・表現】 ・1回も登場しなかった国とは、決して全く関係がなかったわけではないことをおさえる。

3 実践のまとめ

(1) 個に応じた指導・評価(A子)

A子は、課題に向かって真剣に取り組み、授業中の挙手も多い児童である。また、授業の最初に行う地名探しも意欲的に参加し、誰よりも早く見つけることもある。

しかし社会科において、資料から必要なことを読み取る力がやや弱く、地図資料ともなると、一層それが顕著である。そこで本実践では、A子に対する指導援助とその変容について述べる。

《実践事例1より》

研究内容①ーア

地図資料を比較して、共通点や相違点を見つける学習活動の工夫

伊能図と道中図を見比べた後、伊能図の正確さを実感させるために、以下の手順で作業を行った。

- ① 現在の日本地図の形をトレーシングペーパーで写し取る。
- ② 写し取った形を伊能図と重ね合わせる。
- ③ 重ね合わせた2つの地図を見比べる。

2つの地図を重ね合わせて見比べてみると、北海道と東北地方などが、若干東にずれているものの、形はほとんど現在のものと変わらないことが分かる。

A子は、細かい作業は得意であるため、地図を写し取る作業を正確に行うことができた。それを重ねて比較する際、2つの地図の琵琶湖と四国を重ねて比べてみるとよいことを伝える。すると、学習の最後には、伊能図と現在の地図を写し取った日本地図をずれの部分がわかるように、丁寧に重ね合わせて貼って、ノートに学習の足跡を残すことができた。

研究内容②ーア

読み取る視点を明確にした指導の工夫

A子は伊能図と道中図を見比べて、「道中図は文字がいっぱいかいてある。」とノートに書いた。視点に沿ってさらに追究をさせたいと考え、「伊能図にあって、道中図にないものは何。」と問い返したところ、次のような読み取りをすることができた。

- ・伊能図は北海道がある。
- ・伊能図は、小さい島まで細かくかいてある。
- ・伊能図は、形が今と同じ。

《実践事例2より》

研究内容②ーイ

自分で地図や分布図を描いてまとめることができるようにするための学習活動の工夫

A子をはじめ多くの児童が、歴史学習で登場した国々を調べる段階で時間を要した。班で教え合いながら調べさせたり、時間を区切って答えを提示したりして、白地図にまとめる作業までスムーズに進めるように援助を行った。

登場した国々を表に書き出し、白地図にまとめる作業になると、やはりこうした作業には意欲的に取り組めるA子は、丁寧に色塗りをして分布図を作成することができた。その後、自ら作った資料をもとに、自分なりに分かったことや考えたことを次のようにまとめた。

日本は、遠い国も近い国も、いろいろな国と関係があったことが分かりました。中でも中国、ロシア、アメリカといった大きな国と関係していることが分かりました。

(2) 児童生徒の変容(A子)

実践1では、「島や海岸線の形」、「地図にかかれていること」と読み取る視点を明確にしたことで、それを拠り所にした教師の声かけができ、既述のように読み取りをさらに進めることができた。

また、実践1で行った重ね合わせて見比べる活動、実践2で行った白地図にまとめて簡単な分布図をつくる活動を取り入れたことで、それまで、抵抗を見せていた地図資料に主体的に関わろうとする姿を見ることができた。

(3) 成果と課題、課題解決の方途

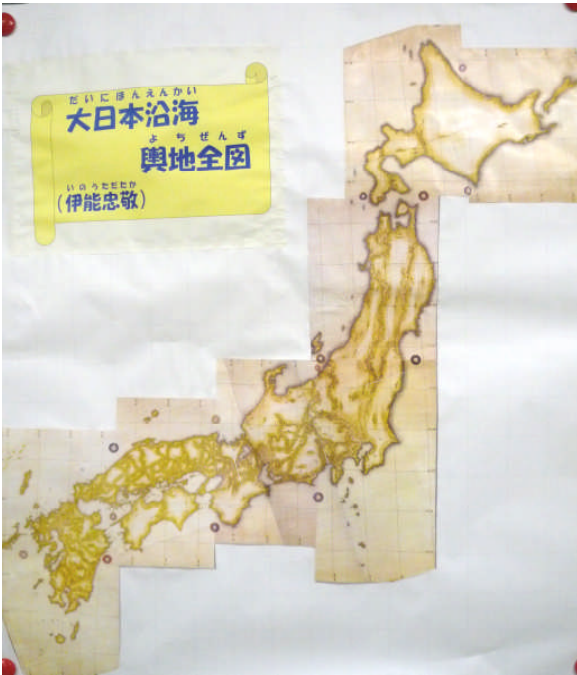
○ 地図資料を読み取る視点を明確にしたり、比較する活動を工夫したりすることで、地図資料に主体的に関わろうとする姿が見られるようになった。

○ 地図に描く、簡単な分布図をつくるということが、課題を解決するための一つの方法となるということを確認することができた。

● トレーシングペーパーで写し取る作業、分布図にまとめる作業は、予想以上に時間がかかった。→ 作業的な活動を意図的、継続的に位置づけることで、地図活用能力や描図能力を伸ばせるようにする。

4 参考資料

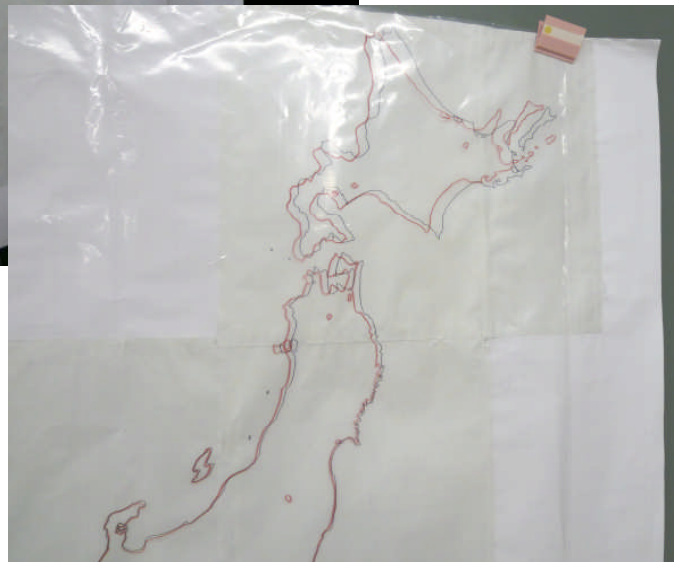
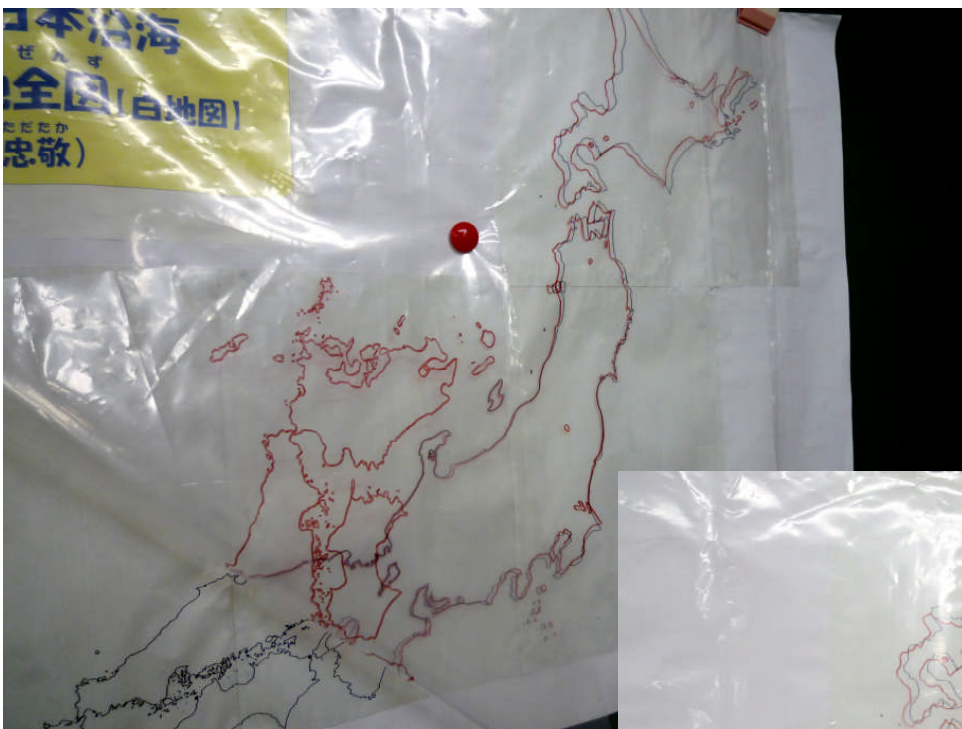
【資料1】伊能図を授業用に加工したもの



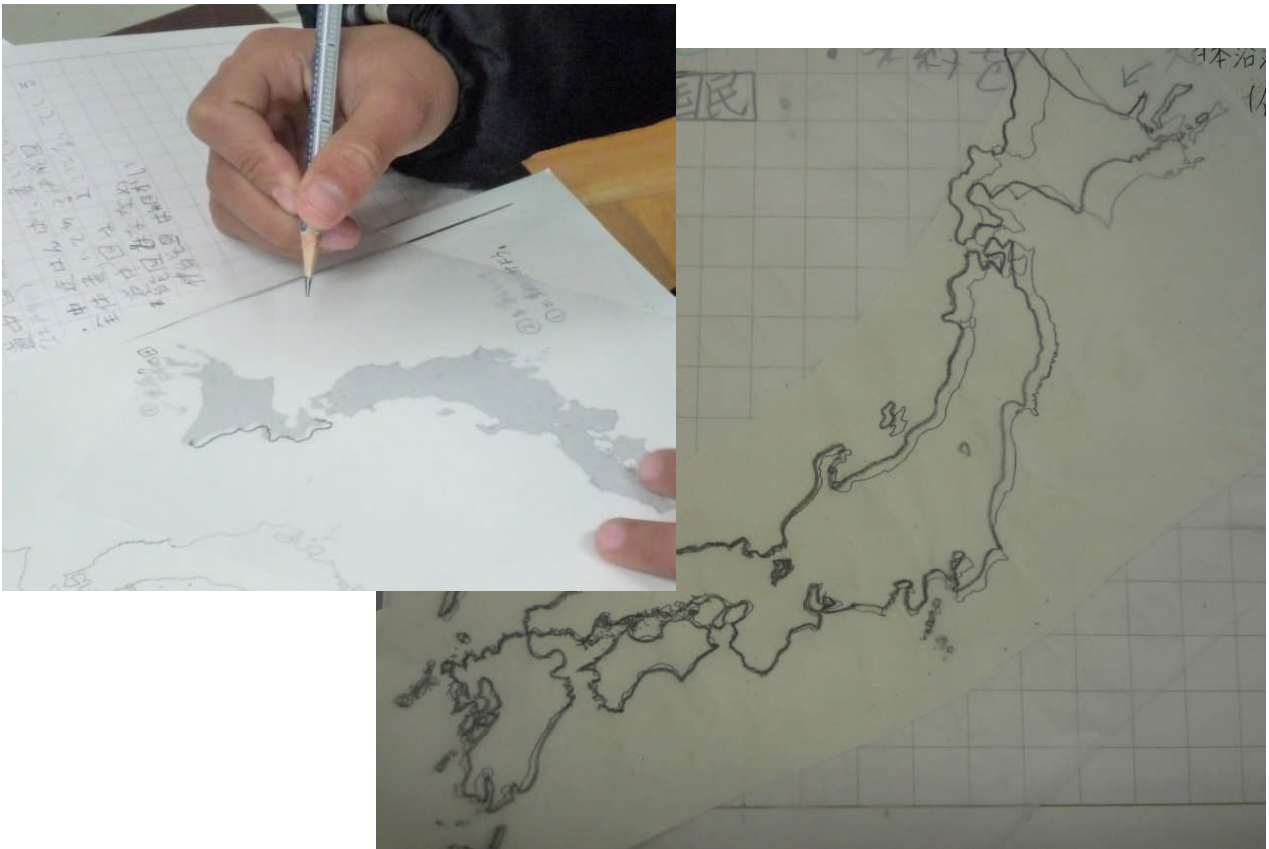
【資料2】大日本国大絵図を授業提示用に加工したもの



【資料3】伊能図を白地図にしたものに現在の日本地図を透明フィルムに写し取って重ねたもの



【資料4】トレーシングペーパーで写し取った現在の日本地図を伊能図を白地図にしたものに重ね合わせたもの・作業をする児童の様子



【資料5】ワークシート1（一部）

ページ	時代	国	内容
104	昭和	(アメリカ) (イギリス)	1941年、ハワイを攻撃し、太平洋戦争にとつ入した。
108	昭和	(アメリカ)	戦争は長びき、やがて日本の都市にはくだんを落とすようになった。
110	昭和	(アメリカ)	沖縄で地上戦が行われ、はげしい戦争となった。
111	昭和	(アメリカ)	広島、長崎に原子ばくだんを落とされた。
111	昭和	(アメリカ)	日本が降伏する直前に満州に攻めこんで来た。
116	昭和	(アメリカ)	安全協定を結び、結びつきを強めた。
117	昭和	(アメリカ)	国際社会に復帰した日本は、この国の協力をうけて、産業を急速に発展させた。
121	昭和	(中国)	1978年に友好条約を結び、友好を強めた。
121	昭和	(中国)	1956年に国交を回復したが、北方領土問題が現在まで残されている。
121	昭和	(ロシア)	1965年に、朝鮮半島を代表する政府として条約を結んで国交を正常化する。
122	昭和	(アメリカ)	1972年に沖縄が日本に返還される。
121	平成	(韓国)	サッカー・ワールドカップを共同開催する。

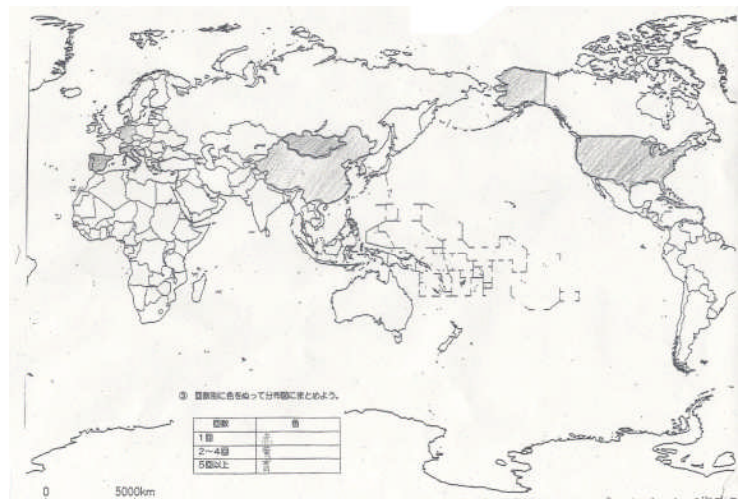
② どの国が何回登場したかを表にまとめよう。

国	正の字で調べよう	登場した回数
朝鮮半島（韓国・北朝鮮）	正	7
アメリカ	正	7
ロシア・ソビエト連邦	正	3
中国	正	3
モナコ		1
オーストラリア		1
スペイン		1
フランス		1
ドイツ		1
イタリア		1
ロシア		1
イタリア		1

④ 日本と関係の深い国々について、分かったことや考えたことを書こう。

日本と結びつきが深い国は朝鮮と中国
アメリカという事が分かりました。時代で
いうと朝鮮は戦後の時代から登場し
ていて、中国とは戦前の時代から結
びつきが深い。中国は戦前の時代から
結びつきが深い。中国は戦前の時代
から結びつきが深い。中国は戦前の
時代から結びつきが深い。中国は戦
前の時代から結びつきが深い。中国
は戦前の時代から結びつきが深い。

【資料6】ワークシート2



《参考文献》

有田和正編『社会科で育てる新しい学力6 世界に関する学習の取り扱い』 明治図書 2008年
河崎かよ子他『楽しい社会科の授業づくり6年①』

喜楽研 2009年